風しん予防接種について【説明書】

風しんの抗体検査を受けた結果、十分な量の風しんの抗体がないことが判明した人は、風しん（麻しん風しん混合（MR）ワクチン）の予防接種を受けることができます。

予診票は接種をする医師への大切な情報です。**接種を受ける人が責任を持って出来るだけ詳しくご記入ください。**

【風しんとは 】

〇風しんウイルスの飛沫感染（注１）によっておこる病気です。潜伏期間は 2～3 週間です。

〇軽いかぜ症状ではじまり、発疹・発熱・後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか、眼球結膜の充血もみられます。

〇発疹も熱も約３日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。

〇合併症として、関節痛・血小板減少性紫斑病・脳炎などが報告されています。

〇血小板減少性紫斑病は、患者 3,000 人に１人、脳炎は患者 6,000 人に１人くらいです。大人になってからかかると重症になります。

〇妊婦が妊娠早期にかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障がいなどの障がいをもった児が生まれる可能性が高くなります。

（注１）飛沫感染とは、ウイルスや細菌がせきやくしゃみなどにより、細かい唾液や気道分泌物につつまれて空気中へ飛びだし、約 1m の範囲で人に感染させることです。

【 予防接種を受けることができない人 】

① 明らかな発熱を呈している人(３７．５℃以上)
② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
③ 麻しん風しんワクチンの接種液の成分によって、アナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな人
④ その他、医師が不適当な状態と判断した場合
⑤ １週間以内に不活化ワクチン（インフルエンザ予防接種など）、２８日以内に生ワクチン（水痘ワクチンなど）を接種した人

【 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人 】

① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障がい等の基礎疾患を有することが明らかな人
② 予防接種で接種後２日以内に発熱のみられた人及び全身性発疹等のｱﾚﾙｷﾞｰを疑う症状を呈したことがある人
③ 過去にけいれんの既往のある人
④ 過去に免疫不全の診断がなされている者及び先天性免疫不全症の近親者がいる人
⑤ 麻しん風しんワクチンの成分に対して、アレルギーを呈するおそれのある人

【 予防接種を受けた後の注意事項 】

① 予防接種を受けた後３０分間くらいは、医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。

接種後の反応として発熱と発疹を起こすことがあり、また、注射部位の発赤・腫脹（はれ）、硬結（しこり）などの局所反応、じんましん、リンパ節腫脹、関節痛、熱性けいれんなどがみられます。アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどの副反応が、まれに生じる可能性もあります。接種後の疾病や死亡が予防接種による健康被害だと認定された場合、予防接種法に基づく予防接種健康被害救済制度に則って補償されます。給付申請が必要となった場合は、接種医と宮崎市にご連絡ください。

② 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位を強くこすることはやめましょう。
③ 接種当日は、いつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動は避けましょう。
④ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

問い合わせ先
宮崎市　健康支援課　２９－５２８６